

2025 杏の会コンサート

～音楽を愛する仲間とともに

2025年8月23日（土）

15:00開場 15:30開演

電気文化会館 ザ コンサートホール

PROGRAM

第一部 若き芽のコンサート

門島 凜征 名古屋音楽大学 院 音楽研究科声楽専攻1年

歌劇「愛の妙薬」より「人知れぬ涙」

作曲 G.ドニゼッティ

ピアノ 佐藤 天徳

太田 花菜 名古屋市立菊里高等学校 音楽科3年

歌劇「リータ」より「家も宿屋も」

作曲 G.ドニゼッティ

ピアノ 櫻井 虹子

三輪 瑠奈 名古屋市立菊里高等学校 音楽科3年

Caro laccio

作曲 F.ガスパリーニ

歌劇「連帯の娘」より「誰もが言う」

作曲 G.ドニゼッティ

ピアノ 竹内 古都

佐藤 奈那江 名古屋芸術大学 院 音楽研究科声楽専攻1年

歌劇「シャモニーのリンダ」より「この心の光」 作曲 G.ドニゼッティ

ピアノ 佐々木 唯道

泉 晴明 東京藝術大学 音楽学部声楽家バス専攻4年

オペラ「Le Nazze Li Figaro」より ”Hai giu Vintu la cansa!~vedro mentreio Sospiro

作曲 W.A.Mozart

ピアノ 神野 心咲

土屋 文乃 梶山女学園高等学校 普通科3年

Vergin,Tutto amor

作曲 Francesco Durante

行々子

作曲 信時 潔

ピアノ 西川 楓花

藤盛 竜聖 名古屋芸術大学 芸術学部芸術学科音楽領域音楽総合コース2年

九十九里浜

作曲 平井康三郎

Sebben Crudele

ピアノ 油谷 晃輔

第二部 若き芽のコンサート 2022 優勝者演奏

〈ノックスヴィル:1915 年の夏〉

作曲 サミュエル・バーバー

歌唱 紅村兆乃

ピアノ 河合毅彦



PROFILE 愛知県立芸術大学声楽専攻時にアメリカ及びイギリス歌曲を学び、同 大学院音楽研究博士前期課程音楽学領域へ転向。在院中に大幸財団学芸奨励生として奨学金を受け、20 世紀アメリカの作曲家サミュエル・バーバーの作品研究を行う。同大学院博士前期課程修了。

2020 年「はたちのソプラノ・ミニリサイタル」を開催。

2022 年第6回杏の会コンサート 第一部コンペティション「若き芽の コンサート」にて 最優秀賞“杏の会賞”受賞。

これまでに坂井いづみ、Marcella Reale、Stefanna Kybalova、中巻寛子の各氏に師事。

鳥取県高等学校にて教壇に立ちながら、演奏活動が続けている

第三部 杏の会が歌う ～カンツォーネ・メドレー～

編曲・指揮 向川原慎一 ピアノ 河合毅彦

「カンターレ、アモーレ、マンジャーレ！（歌って、恋して、食べて！）」その順序はともかく、イタリアのお国柄を表す有名な言葉です。

イタリアはベル・カント唱法の発祥地であり、そして演劇を伴うオペラの発祥国でもあり、まさに「歌の国」なのです。

「カンツォーネ」はイタリア語で広い意味での「歌」という意味ですが、一般的にカンツォーネといえば、イタリア民謡などとして分類されるナポリ地方の歌や、1960年代以降流行した魅力的なポピュラー音楽をさしています。

皆さま良くご存知の懐かしい名曲の数々をお楽しみください。



- 「遥かなるサンタルチア」 サンタルチアの港を別れる寂しさを切々と歌います。
- 「マレキアーレ」 マレキアーレはナポリ近郊の海岸リゾート、サザンの歌みたい。
- 「忘れな草」 1935年のイタリア映画「忘れな草」の主題歌。
- 「フニクリ・フニクラ」 ヴェスヴィオ火山の登山電車の開通を記念して作られた 世界初の CM ソング。
- 「彼女に告げて」 （「命をかけて愛しているのだ」ということを、どうか僕に代わって彼女に告げて欲しい）という内容、だったら人に頼まず自分で言えばどうだろうか？と思ったりもしますが・・・。
- 「ヴォラーレ」 毎春開催されるサンレモ音楽祭の 1958 年の優勝曲で、アメリカで第1回のグラミー賞を獲得し、ミリオンセラーを記録しました。曲の途中で 1964 年の優勝曲「夢みる想い」も挿入しています。

MEMBERS

トップテナー

浅井 英和	浅井 裕之
大須賀 関雄	鬼頭 茂成
鈴木 伸明	長縄 博之
横井 雅生	龍神 邦男



セカンドテナー

石原 靖章	伊東 哲也
栗山 紘和	松村 祐志
山本 楯	

バリトン

浅井 崇幸	末安 堅二
鈴木 基仁	中川 順市

ベース

大津 敏	川崎 善幸
後藤 和広	鈴木 広志
武田 伸夫	

会長	安田文吉
実行委員長	長縄博之
舞台進行	高山忠久
アナウンス	小島範子



「杏の歌～音楽の扉アンサーソング」

作詞 奥山迪子・山田洋子 作曲 緒里原(山田)洋子 編曲 S Mukaigawara

〈作曲者からのメッセージ〉

『杏の歌』制作のはじまりは、私をご招待いただいた2019.8月の杏の会定期演奏会で『音楽の扉』の再演を聴かせていただいたことがきっかけです。熱く素晴らしい演奏に感動の嵐で、ずっと耳に残っていました。(…ジブリ宮崎駿監督の「星を買った日」制作時のお言葉をお借りするならば…)

『杏の歌』構想がその日から種となって時間がたつうちにひとりでに芽が出てしまい、私にもどうすることもできない葉を茂らせてしまいました。それからしばらくは忙しい日々を過ごしていたのですが、2年ほどたったある日ふいに制作のチャンスが訪れ、完成したばかりの音と譜面を杏の会皆様の元へお持ちしたことを思い出します。さいわい皆さんが喜んでくれたからよかったのですが、これをお渡ししないことには私の湧き上がる音楽魂が「YES!」とは言ってくれなかったのです。

～『我がわざは我が為すにあらず』(棟方志功)～

自分の力ではなく高いエネルギーによって自然発生的に曲が生まれ夢中で昇華に至らせる作品作りの行程は、長い作曲人生の中でもそうそう出会えるものではありません。恍惚のように幸せな制作期間に恵まれましたこと、感無量です。

杏の会団員さまに合わせてハーモニーに添削を入れてくださいました向川原慎一さん、状況を深く考察し丁寧に作詞を担当して下さった奥山迪子さんに、深く御礼申し上げます。



PROFILE 山田(旧姓)洋子、ポップス曲提供ペンネームは緒里原洋子。

3歳よりピアノ、6歳より作曲、15歳より各コンテストに出場、スコアリングを林雅彦氏、森田雅彦氏に師事。19歳から編曲、演奏、作曲の仕事始める。

代表楽曲『音楽の扉』(合唱)、『ETERNAL WIND ～ほほえみは光る風の中～』(森口博子)、

2025年フルオーケストラ version による森口博子 GUNDAM SONG COVERS-ORCHESTRA-34年の時を経て初の公式MV完成 YouTube 公開。

この冬には『ETERNAL WIND』アカペラ version を含む森口さんのNEWアルバム発売予定。

